

ラシャイデイン汗錢 俗称 回文錢の解読と分類(4)

分類集編 ①

川瀬 正則

俗称「回文錢」の分類

本誌昨年四月号まで回文錢について概要を紹介させていただきましたが、今号より具体的な錢の分類をしていきたいと思います。

分類の基本は別表の通りです。鑄錢局はクチャ局とアクス局の二局、クチャ局鑄のものは「大字」「潤縁細字」「小字」と大別され、それぞれに正背、逆背があるとされています。アクス局鑄のものは「潤縁中字」で逆背のものが知られています。

回文錢は総じて状態が悪く、鑄不足、鑄溜りなどの影響が考えられ、多くの手変りが存在するだろうと予測されます。例として「紀年」「無紀年」「紀年様(不明瞭)」の違いがあります。

今回はクチャ局鑄「大字」を分類集の形で紹介します。なお、分類集を作成する上で多くの方にご協力いただきました。出拓頂いた方は次の通りです。椿井光華氏(分類集内は光と記載)、吉田淳豊堂氏(分類集内は淳と記載)、玉造荒陵庵氏(分類集内は荒と記載)、平野開寶楼氏(分類集内は開と記載)、大久保明氏(分類集内は久と記載)、西野正義氏(分類集内は西と記載)、

別表 分類の基本

拓本No.			
1 ~ 13			
13 ~ 16			
17 ~ 18			
21 ~ 27			
29 ~ 31			
33 ~ 35			
37 ~ 40			
41			
43			
49			
51 ~ 56			

紀年の表記位置			
正背	上部③	逆背	下部③

1	大字	正背	紀年様
2	潤縁細字	逆背	不明瞭
3	小字	正背	不明瞭
4	潤縁中字	逆背	無紀年
5			

背右下離画
背右下連画

面上部"د"右進

面上部"د"右進

単点アクス

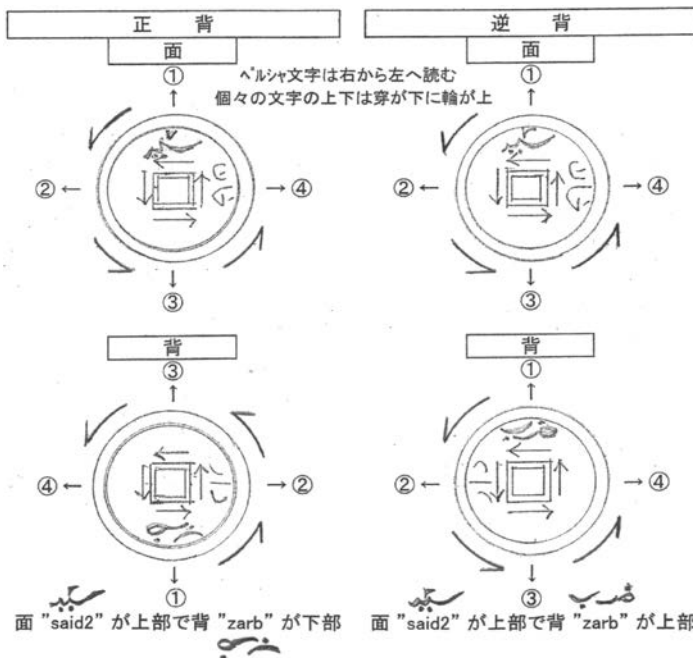
アクス末尾"د"後退

単点・双点アクス

ai-saltanat

クツチャ

アクス



岩田顕彦氏(分類集内は顕と記載)、陳超氏(分類集内は陳と記載)。誌面をもちまして厚く御礼申し上げます。

また、次の書籍から借拓しました。『新疆紅錢大全図説』(分類集内は図と記載)、『新疆歴史貨幣』(分類集内は歴と記載)、『新疆錢幣』(分類集内は幣と記載)、『清朝紅錢錢譜』(分類集内は紅と記載)。

(以下次号)